



平成 27 年度世界モスキートデイ活動報告書

蚊と蚊がもたらす病気を知ろう！

開催日：平成 27 年 8 月 20 日（木）午前 9 時～午後 13 時 30 分

会場：長崎大学坂本キャンパス構内

参加者：小学生 30 名、中学生 10 名と保護者

長崎大学熱帯医学研究所

フィラリア NTD 室



蚊と蚊がもたらす病気を知ろう！

はじめに

1897年8月20日、イギリスの医学者ロナルド・ロスがハマダラカ蚊に刺されることによってマalariaが感染することを発見しました。これを記念して、8月20日は世界モスキートデイと呼ばれ、世界各地で蚊から感染する病気の伝搬を阻止するためのイベントが開催されています。

この世界モスキートデイに合わせ、長崎で初めて蚊の生態と蚊媒介感染症をテーマにしたワークショップが開催されました。主催者である長崎大学熱帯医学研究所は、国内唯一の熱帯医学研究を目的とする文部科学省所管の公的機関であり、熱帯病を含むさまざまな感染症の研究を行っています。私たちは、このように特色ある研究機関が身近にあるという利点を生かし、長崎の子ども達に蚊や感染症に対する興味と関心を持ってもらい、将来、熱帯医学や公衆衛生の分野で世界をリードするような人材に育ってほしいと願っています。

当日のタイムスケジュール

9:00~9:15	受付
9:15~9:20	開会式(熱帯医学研究所所長 森田公一先生)
9:20~9:50	蚊と蚊媒介感染症のお話し(病害動物学分野 砂原俊彦先生)
10:00~10:50	Round 1
11:00~11:50	Round 2
12:00~12:50	Round 3
13:00~13:15	修了書授与式 (フィラリア NTD 室ディレクター 一盛和世先生)
13:15	解散・記念撮影

活動報告

当日は開会式の後、まず、病害動物学分野の砂原俊彦先生より「蚊と蚊媒介感染症のお話し」をしていただきました。普段身近に存在する「蚊」ですが、その生態は一般にはあまり知られてはいません。子ども達は、蚊の生態について楽しく学ぶことができました。また、血を吸う害虫としての「蚊」だけではなく、病気を媒介するベクターとして感染症をコントロールするうえで蚊の生態を知ることが大切だという側面にも気が付くことができました。

次に、参加者は年齢別に3班に分かれ、班ごとに3つの活動群(観察、採集、ミュージアム)を1ラウンドずつ回っていきました。観察活動はグローバルヘルス総合研究棟3階実習室にて、幼虫(ボウフラ)、さなぎ、成虫の観察を行いました。いつも身近な「蚊」ですが、顕微鏡を使ってその構造を見てみると口吻の構造や体の色、柄などをよく観察することができました。子ども達は、実習を通してシマカ(やぶ蚊)とイエカを区別できるようになり、また、それぞれの雌雄の区別ができるようになりました。また、ボウフラとさなぎの観察では、種類によってその活動性に違いがあること、お尻の呼吸管を水面に出して呼吸していることなどを観察できました。

採集活動ではキャンパス構内のグビロが丘周辺を散策しながら、前日に仕込んでおいた集卵用のカップに産み付けられた卵を観察したり、木のうろや慰霊碑の花瓶にたまった水の中にいるボウフラやさなぎを見つけて回ったりして、蚊が増殖する環境を確認することができました。また、キャンパス内

の池を観察して、なぜこの池にボウフラがないのかを考えてもらうことで、天敵の存在や生態系ということを考えるきっかけになりました。

ミュージアムツアーでは、マalariaやリンパ管フィラリア症などの貴重なサンプルや映像の解説を聞きながら、蚊が運ぶ病気や熱帯病について学びました。子ども達は、熱帯病に苦しむ人の写真や蚊が口吻で毛細血管を探り当てる映像などを見てためいきや歓声を上げていました。また、ミュージアムツアー後は、クイズにも挑戦しました。蚊の種類や雌雄を判別したり、蚊の媒介する病気から身を守る方法を考えたりと、かなり難易度の高い問題ばかりでしたが、子ども達はすらすらと答えることができ私たちも驚くばかりでした。

展示コーナーでは、協賛各社のご協力により、実際に子ども達が防虫剤処理をした蚊帳の中に入っござに寝ころがったり、普段目にする事のない大きな殺虫剤用スプレイヤーをみたりすることができました。また、実際に蚊取り線香の匂いを比べたり、虫よけ剤の効果的な使用方法を聞いたり身近な対策方法を学ぶことができました。

最後に、修了式では参加した子ども達全員に『蚊博士認定書』が授与されました。解散後、子ども達はとても誇らしげに、そして嬉しそうに認定書を手にして記念撮影に収まっていた。約三時間という長時間のワークショップであったにもかかわらず、参加した子ども達全員が最後まで真剣に集中してそれぞれの活動に取り組み、たくさんの知識を吸収してくれたことは私たち主催者の予想以上であり、このイベントを通して、さらに蚊や感染症や科学全般に対する興味をもってくれるきっかけになれたのではないかと考えます。

当日の様子



受付



エントランスホール



協賛企業様ブース



森田所長挨拶



砂原先生講義



講義風景



観察講義



観察風景



観察風景



ミュージアムツアー



ミュージアムツアー



クイズ答え合わせ



採集風景



採集風景(グビロが丘)



採集風景(池周辺)



蚊博士認定書授与



蚊帳の中で遊ぶ子ども達



修了式後の記念撮影

参加者の感想(アンケートより抜粋)

- 蚊は身近な虫だが、嫌われることが多く、今回のような講演、採集、観察で詳しく学ぶ機会は本当に良かった。
- 熱帯の病気について考えるよい機会になりました。
- 参加賞の「虫コナーズ」がすごくとんちが効いてて良いと思います。